

地对協コーナー

いよいよ平成30年度が始まりました。この30年度は、2025年問題やその先を見据えた地域医療構想を含む、「第7次広島県保健医療計画」と「第7期ひろしま高齢者プラン」の実現に向けて具体的に着手する年であり、われわれ医療関係者にとっても極めて重要な節目の年であることは間違いありません。地对協としても、不断の見直しを行いながら、これらの計画の実現に向けて関係者の総力を結集して取り組みたいと思いますので、引き続き格別のご指導・ご協力をお願いします。

皆さまのご要望やご意見などがございましたら、遠慮なく、事務局までお寄せください。また、過去の委員会活動などは、地对協ホームページ (<http://www.citaikyo.jp/>) へ掲載していますので、アクセスをお待ちしております。

○精神疾患専門委員会 広島県アルコール健康障害サポート医養成研修(東部)

日時：平成30年2月1日(木) 19時00分
場所：福山市医師会館4階 演習室

アルコール健康障害対策の着実な推進を図るため、行政、事業者、医療関係者、自助グループなど、さまざまな関係者からなる連絡協議会を設置し、広島県の実情に即した「広島県アルコール健康障害対策推進計画」を策定した。同計画の目標の一つである「アルコール健康障害サポート医と専門医療機関等の連携の促進」を図るため、サポート医養成研修を開催した。

3月15日号の地对協コーナーにて報告した、1月25日(木)西部地域で開催の研修と同様の内容であるため、詳細は割愛させていただく。

最終的に49名のサポート医が誕生した。

○平成29年度圏域地对協研修会

日時：平成30年2月4日(日) 13時00分
場所：しまなみ交流館(テアトロシェルネ)

尾三地域保健対策協議会(会長：宮野良隆尾道市医師会長)の担当により、「在宅医療の環境と地域包括ケアシステム」をメインテーマに掲げ開催した。

当日は、「超高齢地域の地域包括ケアシステムと在宅医療の変容」と題して、尾道市医師会地域医療システム研究所所長の片山壽先生による特別講演と「超高齢社会を支える地域包括ケアシステムのあり方」をテーマにシンポジウムを開催した。600名の参加があった。

詳細については、広島県医師会速報平成30年3月5日号付録としてお知らせ済みのため、割愛させていただく。

○予防接種・感染症危機管理対策専門委員会 第2回予防接種WG

日時：平成30年2月7日(水) 19時30分
場所：広島県医師会館5階 502会議室
WG長：渡邊 弘司

次年度の広島県定期予防接種の接種率調査にあたり、調査項目・内容などについて協議した。平成30年度は、定期予防接種の全対象ワクチンにおいて、接種率と各市町の接種勧奨の取り組みについて調査することとした。

報告・協議事項

(1) 次年度の広島県定期予防接種接種率調査について

平成30年度の広島県定期予防接種市町別接種率調査に向け、調査項目などについて協議した。

定期予防接種率の算定方法が市町間で統一されていない現状を鑑み、平成27年度に県内統一の算定式を作成した経緯と、本算定式を用いて調査した平成27年度の市町別接種率および接種勧奨方法(DT2期、MR、日本脳炎、水痘、B型肝炎)、また、平成28年度のB型肝炎ワクチン、日本脳炎ワクチンの市町別接種状況と接種勧奨方法の調査結果について確認した。

次年度は、平成29年度的全ワクチンの接種率と各市町の接種勧奨の取り組みについて調査を行う予定とした。調査結果を踏まえ、初年度との比較・検討などを行うこととした。

○医薬品に関する講演会

日時：平成30年2月8日(木) 19時00分
場所：広島県医師会館1階 ホール

ポリファーマシーの解決に向けた問題意識の共有および多剤使用に関するアンケート調査の

結果報告の場として、標記講演会を開催した。特別講演では、東京大学大学院医学系研究科加齢医学教授の秋下雅弘先生より、「高齢者のポリファーマシー対策」と題して講演があった。

講演内容

「多剤使用に関するアンケート調査結果について」、医薬品の適正使用検討特別委員会の豊見敦(広島県薬剤師会常務理事)委員より中間報告があった。

患者の服用、使用する医薬品については、おおむね5~6種類以上を「多い」と感じる事が唆された。多剤使用により問題があると感じる割合は、訪問看護ステーションなど、患者の直接の看護・介護にあたる施設で高い一方、患者(来局者)では比較的問題に感じることが少ない状況であった。多剤使用に関する問題への対応については、すべての職種において情報共有の重要性が挙げられており、よりスムーズな連携が今後の問題解決に向けて重要であるとした。

続いて、「高齢者のポリファーマシー対策」と題して、東京大学大学院医学系研究科加齢医

学の秋下雅弘教授が講演した。

ポリファーマシーの主因は、多病と複数医療機関・診療科の受診にあり、回避策として疾患ベースの治療の考え方ではなく、予防薬のエビデンスや対症療法の有効性、薬物療法以外の手段の検討などが必要であるとした。

また、個々の病態や生活機能、生活環境、意思などを考慮し、優先順位を総合的に判断することが重要であると指摘した。参考として、2015年に日本老年医学会発行の「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」を紹介した。

処方適正化のためには、まずは食事、排泄、睡眠習慣といった生活指導が基本であること、また、複数の医療機関を受診している場合でもかかりつけ医・薬剤師による医薬品の一元管理など、医療機関と薬局間での相互の情報交換や、在宅医療など療養環境移行の際の処方見直しも1つのきっかけになると考える。

ポリファーマシー対策は、高齢者の医療の質の確保、患者の健康のために必要であり、この軸を大切に取り組んでいただきたいと述べた。

県地对協からの提供資料について

県地对協では以下の県内共通クリティカルパス、パンフレット、マニュアル等を作成しています。ご入り用の際は下記事務局までご連絡ください。

【地域連携クリティカルパス】

- 乳がん患者さんのための「わたしの手帳 Ver.5」
- 肺がん術後患者用「わたしの手帳 Ver.2」
- 心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス
- C型肝炎「わたしの手帳」 など

【パンフレット・マニュアル】

- 広島県のつつが虫病と日本紅斑熱について
- 予防接種の普及を目指して
- 医療従事者等における体液曝露事故後のHIV感染防止マニュアル
- ACPの手引 「豊かな人生と共に…」
- 海外で気をつける蚊媒感染症 デング熱、ジカウイルス感染症(ジカ熱)、チクングニア熱、マラリア

【報告書】

- 新型インフルエンザに関するアンケート調査報告書

【事務局】 広島県医師会地域医療課 電話：082-568-1511 Eメール：citaikyo@hiroshima.med.or.jp



乳がん患者さんのための「わたしの手帳 Ver.5」



肺がん術後患者用「わたしの手帳 Ver.2」



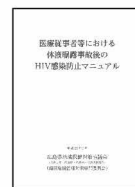
心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス



広島県内のダニ媒介感染症 つつが虫病(日本紅斑熱) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)



予防接種の普及を目指して



医療従事者等における体液曝露事故後のHIV感染防止マニュアル



新型インフルエンザに関するアンケート調査報告書



ACPの手引 豊かな人生とともに…

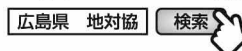


C型肝炎「わたしの手帳」



海外で気をつける蚊媒感染症 デング熱、ジカウイルス感染症(ジカ熱)、チクングニア熱、マラリア

※一部ホームページにて公開中



など